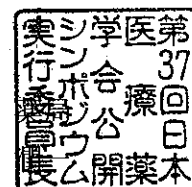


## 第37回医療薬学公開シンポジウム報告

国保 日高総合病院  
常風



平成21年11月28日(土)、徳川御三家の一つ紀州の地、和歌山市で、日本医療薬学会主催、和歌山県病院薬剤師会、(社)和歌山県薬剤師会後援で「医療薬学会第37回医療薬学公開シンポジウム」を開催いたしました。今年5月よりは新型インフルエンザ流行への対応に追われている医療界となっています。本シンポジウム準備中はそのことを加味しながら心配しましたが、当日、近畿地区からも大勢の参加をいただき、病院薬剤師、保険薬局薬剤師、大学教員、212名が集い、討論していただきました。

平成21年度の関西地区での第37回公開シンポジウムは「医療現場の問題点・疑問点を形にする」をテーマといたしました。和歌山の地は薬科大学・薬学部が無く、薬剤師の教育・研究を行うには自己研鑽以外に指導・アドバイスを求める機会が少ないことから、特に今回はこのテーマといたしました。

医療現場における薬剤師は、業務の改善・工夫等をまとめることはできますが、それを医療薬学に発展させる様々な切り口をもつ者は一部の薬剤師に限られています。幅広く科学的に表現する力を養うことが大切です。そのためには、薬科大学・薬学部の協力と指導は不可欠と考えます。医療現場の薬剤師と大学教員の二輪が理解し合い走ることにより、医療薬学の中で医療現場の「学問」が標準化され確立されてくると信じます。

今回の公開シンポジウムは、基調講演として「まずは目の前の課題に気づくことから始めてみませんか？」で同志社女子大学 薬学部 臨床薬理学 森田邦彦教授に幅広い視野と経験を基にお話をいただきました。次にシンポジウムでは、病院薬局で活躍されている、和歌山労災病院・満田正樹、赤穂市民病院・室井延之、大阪労災病院・前田頼伸、の3名の先生にそれぞれの立場からテーマに則して語っていただきました。また、大学の立場から武庫川女子大学薬学部・内田亨弘教授に薬剤師への研究支援について述べていただきました。総合討論の場を設け、参加者のみなさまと熱く意見交換していただき、医療現場から得たものを学問にしたいという参加者の積極的な姿勢が伺えました。このことを契機に、参加者のみなさまは、本シンポジウムで医療現場での業務の見方に、新しい切り口と解決方法を得たことと思います。

さて、「進化する」という語句には私なりの解釈と思いがあります。解釈は、「進化」と「進歩」は異なる。「進化」はどのような状況でも環境に応じて生き延びていくという意味。「進歩」は次第に良い方向に進んでいくという意味。と思っています。思いは、薬剤師は医療の中で発展しながら環境に応じ成長していかなければならない。このことから「進化する」に至りこの語句を使っています。今回の第37回公開シンポジウムの経験を重ねて、医療薬学は薬学の中ではまだ新しい分野の学問。人を対象とした科学的分析が必要な学問。どのような環境においても生き延びる力が必要。その意味で“進化する医療薬学”と訴えたいです。

最後に、多くのご提言をいただいた講師、シンポジストの諸先生をはじめ、座長の労を  
お願いした北野病院 國正淳一、和歌山県立医科大学附属病院 崎山晃宏の両先生、また、  
運営にあたりご理解とご協力とご支援をいただいた、真進堂薬局 稲葉真也先生ならびに多  
数のみなさま方に深く感謝申し上げます。

1. テーマ 「医療現場の問題点・疑問点を形にする」
2. 日 時 平成 21 年 11 月 28 日 (土)
3. 場 所 ホテルグランヴィア和歌山 6階 ル・グラン (和歌山市友田町 5 丁目 18 番地)
4. 対 象 病院薬剤師、保険薬局薬剤師、大学教員
5. 参加者 212 名
6. 参加費 500 円
7. プログラム

- |       |  |                 |       |
|-------|--|-----------------|-------|
| 13:30 | 開会の辞                                       | 実行委員長           | 常風 潤一 |
| 13:35 | 基調講演                                       | 座長 国保日高総合病院 薬局長 | 常風 潤一 |
|       | 「 まずは目の前の課題に気づくことから始めてみませんか? 」             |                 |       |
|       | 同志社女子大学 薬学部 臨床薬剤学<br>教授 森田 邦彦              |                 |       |
| 14:30 | シンポジウム (発表 25 分、討論 5 分)                    |                 |       |
|       | 「医療現場の問題点・疑問点を形にする」                        |                 |       |
|       | 座長 (財) 田附興風会 医学研究所北野病院 薬剤部長 國正 淳一          |                 |       |
|       | 和歌山県立医科大学附属病院 薬剤部副部長 崎山 晃宏                 |                 |       |
|       | 1. 「 和歌山労災病院における研究・発表の現状と課題 」              |                 |       |
|       | 和歌山労災病院 薬剤部 満田 正樹                          |                 |       |
|       | 2. 「 一地方病院にできる医学・薬学研究のレシピ 」                |                 |       |
|       | 赤穂市民病院 薬剤部長 室井 延之                          |                 |       |
|       | 3. 「 症例から学ぶ戦略的薬剤業務 」                       |                 |       |
|       | 大阪労災病院 薬剤部長 前田 頼伸                          |                 |       |
|       | 4. 「 薬剤師の研究支援のための戦略と戦術<br>～薬科大学は今何ができるか～ 」 |                 |       |
|       | 武庫川女子大学薬学部 臨床製剤学講座 教授 内田 享弘                |                 |       |
| 16:30 | 総合討論                                       |                 |       |
| 16:55 | 閉会の辞                                       | 真進堂薬局           | 稲葉 真也 |